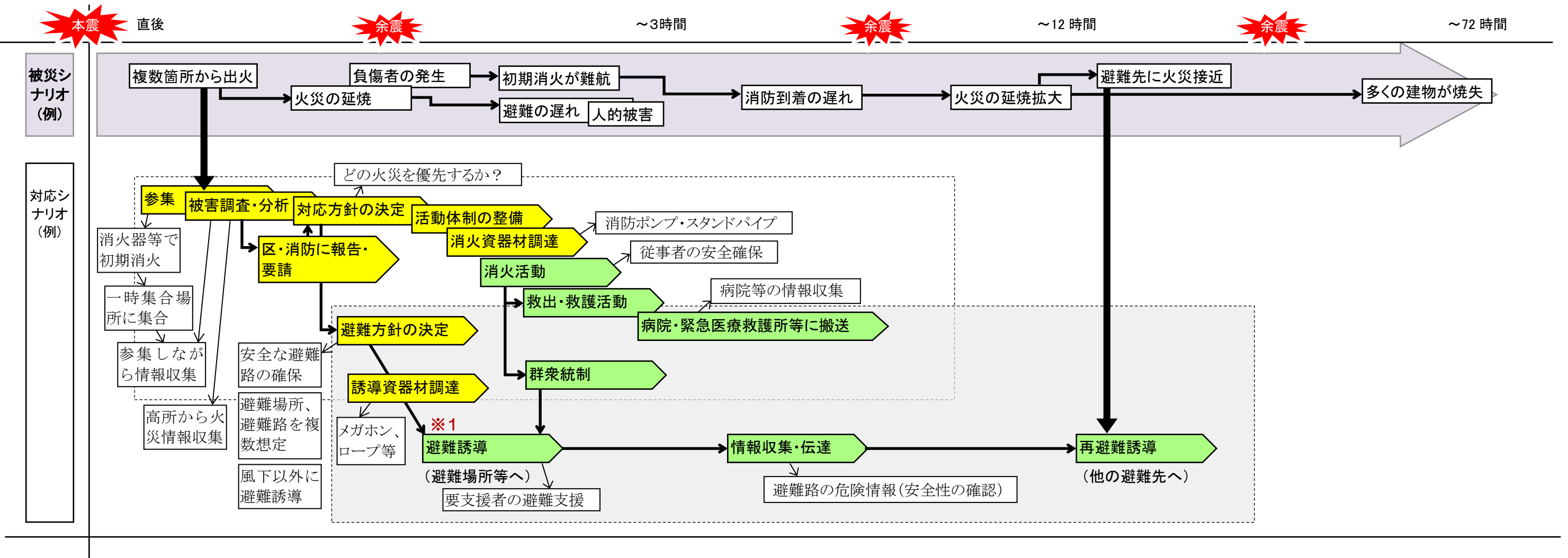


(3) 成増地区「被災・対応シナリオ(共助)」

(注1) 「対応シナリオ(例)」の()は活動内容を示し、()は活動準備を示します。
 (注2) 吹き出しの青色()はワークショップでの意見を示し、白色()は補足意見を示します。
 (注3) 写真は全て阪神・淡路大震災の様子を示します。

1) 建物火災



【全体的な活動の流れ】

○火災の場合には、「消火活動」、「救出・救護活動」、「病院等への搬送」、「群衆統制」、「避難誘導」等が必要となります。
 そのため、迅速な「対応方針の決定」、「活動体制の整備」、「必要資器材の調達」等の準備が必要です。

【※1 避難誘導】

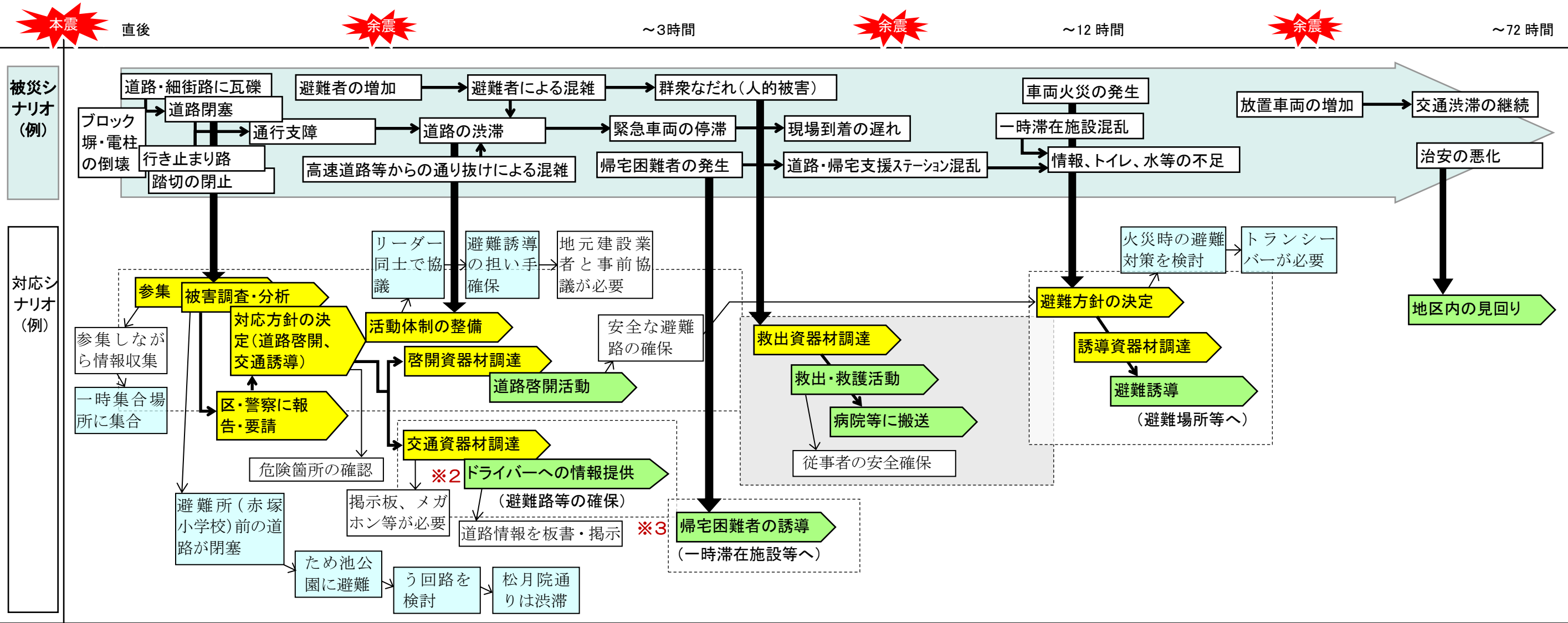
○密集市街地では、同時多発火災の場合を想定し、「初期消火」、「安全な避難路の選定」、「要支援者の避難支援」等を事前に検討しておくことが重要です。
 ○たとえば、避難先に火が近づき、「再避難」の必要に迫られた場合、先遣隊が避難先を確認し、安全な再避難場所・避難路を確保した上で先導します。

○また、幹線道路の渋滞、高架橋の倒壊等で道路が使えないことも想定されます。道路の混雑・渋滞や被害状況に応じた安全な避難方法を複数パターン考えておくことも大切です。



2) 道路閉塞

(注1) 「対応シナリオ(例)」の()は活動内容を示し、()は活動準備を示します。
 (注2) 吹き出しの青色()はワークショップでの意見を示し、白色()は補足意見を示します。
 (注3) 写真は全て阪神・淡路大震災の様子を示します。



【全体的な活動の流れ】

- 道路閉塞の場合、地盤や沿道建物の被害に伴い閉塞する可能性があるため、「道路啓開活動(ガレキ除去)」、「ドライバーへの情報提供」等が考えられます。
- このほか、人的被害が発生した場合の救出・救護活動、車両火災時の避難誘導、帰宅困難者の誘導等も想定されます。

【※2 ドライバーへの情報提供】

- 住民による交通規制や誘導が難しくても、通り抜けをうかがうドライバーに対して交通情報の提供程度であれば、実行可能な対応と考えられます(「この先大渋滞につき通り抜け不可」のプラカードの掲示等)。

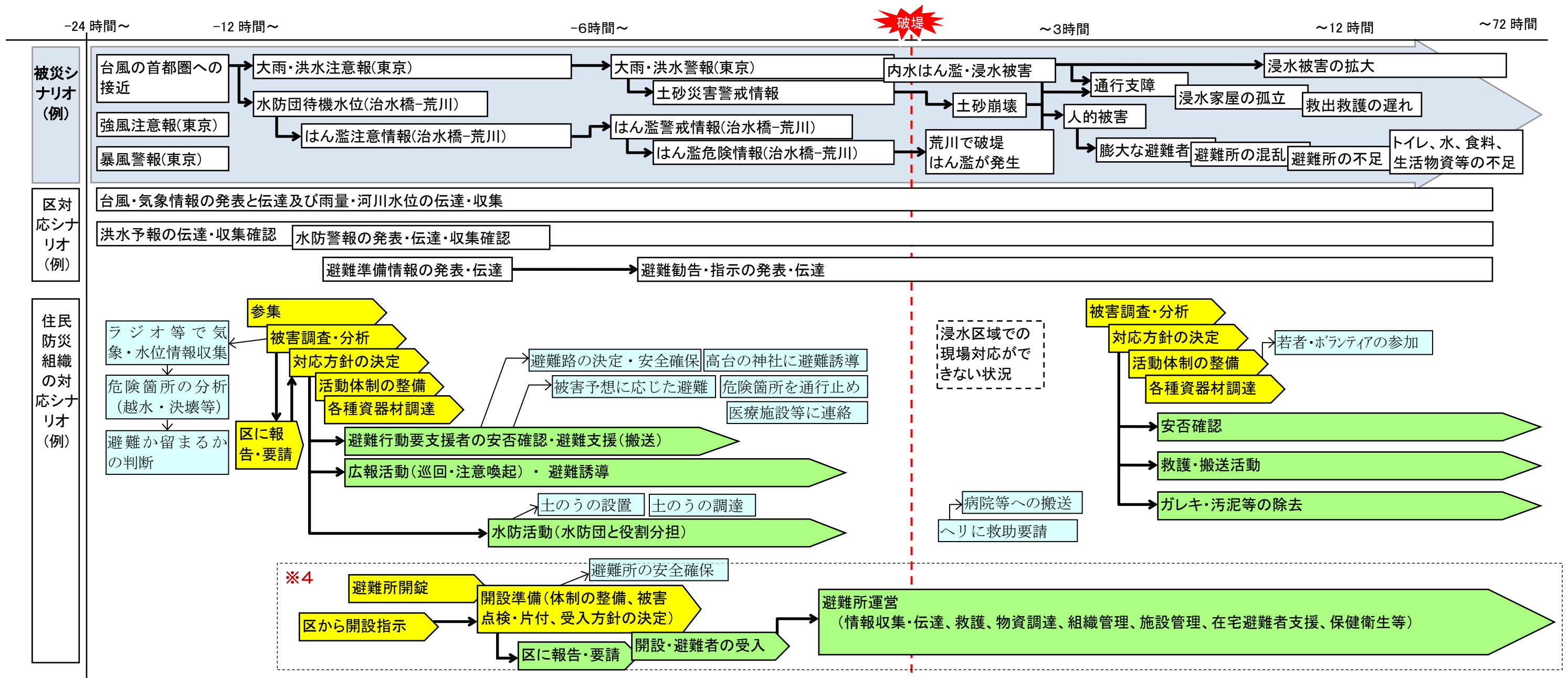
【※3 帰宅困難者の誘導】

- 地域の避難所に帰宅困難者が押し寄せた場合には、一時滞在施設(成増社会教育会館)に関する情報提供や誘導を行うことも考えられます。



3) 洪水

(注1) 「対応シナリオ(例)」の()は活動内容を示し、()は活動準備を示します。
 (注2) 吹き出しの青色()はワークショップでの意見を示し、白色()は補足意見を示します。
 (注3) 写真は全て平成27年9月関東・東北豪雨の鬼怒川決壊の様子を示します。



【全体的な活動の流れ】

○「洪水」の場合、はん濫前からのタイムラインに沿った対応が必要である。破堤12時間前には参集し、雨量・河川水位の情報収集・分析を行い、「避難行動要支援者の安否確認や避難支援」、「搬送活動」、「広報活動・避難誘導」、「水防活動」等を行います。
 そのため、迅速な「対応方針の決定」、「活動体制の整備」、「必要資器材の調達」等の準備が必要です。

【※4 避難所開設・運営】

○実際には左の活動に加え、その後の膨大な避難者への対応、つまり、「避難所の開設・運営」が必要になります。
 ○区の防災計画では「区からの開設指示」を受けて「避難所の開設」を行うことになっていますが、区からの指示が届かない場合(休日・夜間等)

も想定し、地域住民による主体的な開設・運営方法を検討しておくことも必要です。
 ○さらに、避難所の開設・運営には、「運営体制の整備」、受入施設の「被害点検・片付」、「避難者の受入」、「避難所運営に必要な様々な活動」等が必要です。



ポイント！

災害対応を効果的に行えるように、区等が提供する情報等を活用しながら、災害対応の「特に優先度の高い活動」と、そのための「事前対策」を、「人・モノ・情報・空間」の視点で考え、進めましょう。

(1) 「事前対策」の考え方**1) 「事前対策(公助)」について**

板橋区等が提供している各種情報を活用して、事前対策を進めましょう。

— p23 から詳しく！ —

2) 「事前対策(自助)」の考え方

「事前対策リスト(自助)」では、自助を普及・啓発するために、災害に備えて日頃から家庭で準備しておきたい事柄をチェックリストにしました。現時点での備えをチェック(評価)した上で、今後の実施計画を考えてみましょう。

— p25 に詳しく！ —

3) 「事前対策(共助)」の考え方

実際の災害では、限られた資源を、特に優先度の高い活動に集中的に動員する判断が求められます。そこで、共助の事前対策を考えるにあたっては、まず、被害状況の把握とそれにもとづくその後の対応について、その優先度合いを検討します。

次に、優先度が高い活動を円滑に進められるように、以下の「人・モノ・情報・空間」の視点で必要なことをリスト化し備えます(下記参照)。

「事前対策リスト(共助)」では、「対応シナリオ」に応じた活動テーマ別の事前対策をリストにしました。地域で協力しながら大事なこと、できることから取り組みましょう。

— p26 から詳しく！ —

用語説明

「人」は、人材や組織を育て、地区内外の関係団体と連携すること、住民同士が交流し顔見知りの関係になること等が大事です。

「モノ」は、救出・救護・搬送、消火等の対応に用いる資器材の配備、調達方法等を検討しておくことが大事です。

「情報」は、必要になる情報を整理し、情報収集・伝達の体制をつくり、情報連絡手段を準備し、訓練で動けることが大事です。

「空間」は、災害対応に必要な空間、安全な避難に必要な空間、災害に強い空間の整備、利用方法の検討等が大事です。

(2) 「事前対策(公助)」を活用しましょう

1) 地震時の避難先や自宅周辺の状況を確認しましょう

ポイント!

防災マップや「どこナビいたばし」「板橋区防災マップアプリ」などを使い、最寄りの避難先とそこまでの避難路を確認しましょう。一時集合場所は、地域の町会・自治会で決められています。(マップの「一時集合場所リスト」参照)

避難の流れ

避難先を記入しましょう

情報の収集・伝達



一時集合場所

火災が拡大



避難場所

自宅で住めない



避難所 (区立小中学校等)

「どこナビいたばし」

ホームページ上に用意した地図を利用して、避難所や避難場所等、区内の様々な施設の位置を探ることができます。

「板橋区防災マップアプリ」

防災マップと防災関係情報を閲覧できるスマートフォンのアプリ(無料)です。

- ◇インターネット非接続状態でも現在地を表示。
- ◇避難所や避難場所等、区内の様々な施設を地図上に目印表示。
- ◇防災関係施設と現在地を結び、進行方向を案内。

※アプリダウンロード時の通信費、外部リンクページの閲覧による通信費、電話番号発信による通話料等は、自己負担となります。



Android
端末用



iPhone
端末用

2) 防災・緊急情報メール配信サービスに登録しましょう

- 登録したアドレス宛に板橋区の災害や気象などの情報を配信します。

◇主な発信情報—【地震の情報】【板橋区内の気象情報・注意報】ほか

◇登録方法 右のQRコードを読み取るか、空メールを送信してください。

メールアドレス itabashi@bousai-mail.jp

(受信料金(通信費)や通信機器については自己負担となります)



3) 安否確認サービスの利用方法を確認しましょう

- 災害用伝言ダイヤル「171」の使い方を確認し体験しましょう（毎月1日・15日等は体験利用日）

伝言の録音

- ① 「171」 にかける
- ② 「1」 + 「市外局番からの電話番号」
- ③ ガイダンスが流れた後、ピッという音の後に、伝言を録音します



伝言の再生

- ① 「171」 にかける
- ② 「2」 + 「市外局番からの電話番号」
- ③ ガイダンスが流れた後に、録音された伝言が再生されます



4) 防災行政無線・電話応答サービスについて

- 災害発生時に地域住民の生命・安全を守るために必要な緊急情報を伝える手段として、防災行政無線を整備し、小中学校や公園など区内に 165 か所の屋外放送塔を設置しています。防災行政無線からの放送を「聞き漏らした」「聞き取れなかった」という場合には、放送された内容を以下の番号より確認できます。

電話応答サービスの電話番号
〈 03-5943-7200 〉

- ・ご利用には、通話料金がかかります。
- ・録音されている放送内容は、最新の 20 件です。放送から 24 時間経過すると、放送内容は削除されます。

5) 風水害関連

「板橋区気象観測システム」

- 区では、雨量や水位等を、下記の区ホームページにて、常時提供しています。気象庁が発表する気象警報や注意報と合わせて活用しましょう。



板橋区気象観測システム 〈<http://www.tenki.ne.jp/itabashi/index1.html>〉

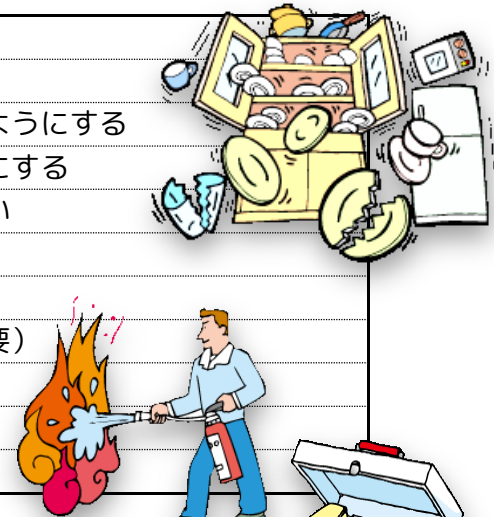
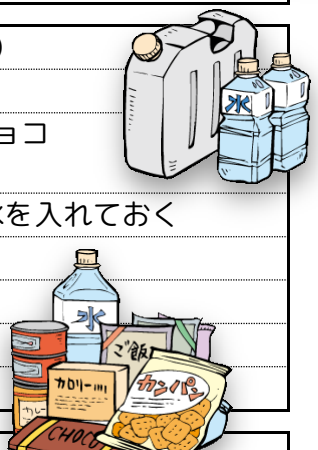
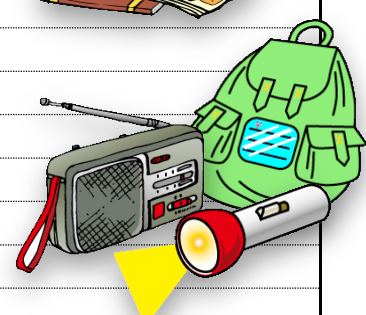
※大雨や水位の急速な上昇時には【防災・緊急情報メール配信サービス】（前頁参照）によりメールで情報提供を行います。

区が提供する避難情報

テレビ・ラジオ、防災行政無線、防災・緊急情報メール、消防署・消防団の広報車・ポンプ車、警察のパトカー、住民防災組織・近隣住民の声掛け等により伝達

- 避難準備情報⇒避難に時間がかかる方（要支援者など）は、避難を始めてください。通常の避難ができる方は、気象情報に注意し、家族との連絡や非常用持出品の用意など、避難準備を始めて下さい。
- 避難勧告 ⇒通常の避難ができる方は、決められている避難所などへの避難を始めて下さい。
- 避難指示 ⇒ただちに避難してください。避難中の方は、すぐに避難を完了して下さい。外が危険な場合は、自宅や近くの建物の2階などに避難し、屋内で安全を確保して下さい。

(3) 「事前対策リスト(自助)」

家の中の安全	<input type="checkbox"/> 家具が転倒しないように固定する	
	<input type="checkbox"/> 建築物の耐震診断・耐震補強をする	
	<input type="checkbox"/> 寝室には家具を置かないか、寝床に向かって転倒しないようにする	
	<input type="checkbox"/> 玄関などの出入り口までは物を置かずに避難できるようにする	
	<input type="checkbox"/> ベランダの避難用の隔壁、避難ハッチ周りに物を置かない	
	<input type="checkbox"/> 家具の扉が揺れで開かないようにする（耐震ラッチなど）	
	<input type="checkbox"/> 家具のガラス扉などは飛散防止フィルムを貼る	
	<input type="checkbox"/> 寝室に靴やスリッパ、軍手（ガラスが飛散した場合に必要）	
	<input type="checkbox"/> ほうき、ちり取り（掃除機は停電時使えない）	
	<input type="checkbox"/> 感震ブレーカーの設置（地震による電気火災への対策）	
<input type="checkbox"/> 消火器の設置場所と使い方の熟知		
避難・救護	<input type="checkbox"/> 安否確認用ステッカー	
	<input type="checkbox"/> ホイッスル（閉じ込め時に音を発するため）	
	<input type="checkbox"/> 災害伝言ダイヤルなど家族の連絡方法の確認	
	<input type="checkbox"/> 応急医薬品（絆創膏、消毒薬、傷薬、包帯、胃腸薬、鎮痛剤、解熱剤、常備薬など）	
水や食料	<input type="checkbox"/> 飲料水；1人1日3リットルを最低3日分（7日分を推奨する）	
	<input type="checkbox"/> 水用携行タンク（飲料水の配給時に必要）	
	<input type="checkbox"/> 食料；レトルト、缶詰、インスタント食品、栄養補助食品、チョコレート等の菓子を最低3日分（7日分を推奨する）	
	<input type="checkbox"/> 生活用水（飲料しない水）；風呂の汲置き、やかんやポットに水を入れておく	
	<input type="checkbox"/> 粉ミルク、離乳食（乳幼児がいる場合）、アレルギー対応食品	
	<input type="checkbox"/> ガスカセットコンロ、予備のガスボンベ	
	<input type="checkbox"/> ラップ（食器にかぶせて使えば洗わなくてよい）	
	<input type="checkbox"/> 紙皿、紙コップ、割り箸	
避難生活用品	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ（便袋）	
	<input type="checkbox"/> トイレットペーパー（余分に備蓄）	
	<input type="checkbox"/> ティッシュ（余分に備蓄）	
	<input type="checkbox"/> 懐中電灯、ランタン、マッチ、ライター	
	<input type="checkbox"/> ラジオ	
	<input type="checkbox"/> 電池（余分に備蓄）	
	<input type="checkbox"/> 毛布	
	<input type="checkbox"/> 虫よけ用品	
	<input type="checkbox"/> ビニールシート（敷物、雨よけ）	
	<input type="checkbox"/> 貴重品リスト	
	<input type="checkbox"/> 情報収集先リスト（自治体HP等）	
	<input type="checkbox"/> 防災マップ	
	<input type="checkbox"/> ガムテープ	
	<input type="checkbox"/> ドライシャンプー	
	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ	
	<input type="checkbox"/> マスク	
<input type="checkbox"/> 衣類		
<input type="checkbox"/> 生理用品		
<input type="checkbox"/> 紙おむつ		
<input type="checkbox"/> 雨具		
<input type="checkbox"/> 新聞紙（防寒、燃料）		
<input type="checkbox"/> リュック（物資の持ち運び用）		
<input type="checkbox"/> 動物の管理としつけ（身元表示、健康管理、ペット用品、一時預かり先の確保等）		
便利なもの	<input type="checkbox"/> ソーラーまたは手動充電器（携帯、電池用）	
	<input type="checkbox"/> 家庭用発電機	
	<input type="checkbox"/> 蓄電池	
<input type="checkbox"/> 防災カード（住所、氏名、連絡先、既往症、通院先、薬アレルギー、処方箋等）		
<input type="checkbox"/> ヘルメット・工具類		
<input type="checkbox"/> 公衆電話用10円硬貨		

(4) 「事前対策リスト(共助)」

【凡例 ①：人 ②：モノ ③：情報 ④：空間】

1) 建物火災への対策

小テーマ	災害時、特に優先度の高い活動	事前対策 (例)
①参集	<ul style="list-style-type: none"> 身の安全確保 参集しながら情報収集 震度5強で参集場所に参集 	<ul style="list-style-type: none"> ①組織体制図、防災連絡会の名簿を作成 ②学校のカギを担当者が所持 ③装備品の準備(ヘルメット、軍手、靴等)
②情報収集	<ul style="list-style-type: none"> 防火地震対策部の設置 高所から火災状況の把握 ブロックで火災の覚知・連絡→ブロックで初期消火 危険地区、商店街、密集住宅地を調査、見回り 	<ul style="list-style-type: none"> ①防火地震対策部の増員 ②トランシーバーの配備 ③ブロック毎の情報連絡体制づくり ③ブロックと本部の情報集約体制づくり(ブロック毎の拠点[児童遊園等]) ③調査項目の整理(出火場所、火災被害、道路閉塞等)、被害予測 ④「危険・資源マップ」の作成・活用
③状況判断	<ul style="list-style-type: none"> 避難対象範囲の想定 避難場所・避難路等の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ①図上・実働訓練(本部情報訓練、避難訓練等) ④安全な避難場所・避難路の想定
④声かけ	<ul style="list-style-type: none"> 出火点周辺の住民に避難指示 ステッカーを玄関に貼る 	<ul style="list-style-type: none"> ①班長の役割周知(声かけ担当) ②ステッカー、黄色い旗の配布・活用 ③ブロック毎に居住情報の確認(不在の家を予めチェックしておく)
⑤避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> 搬送の担い手確保 要支援者等の避難支援 	<ul style="list-style-type: none"> ①避難訓練(避難所の初動の立ち上げ訓練、夜間の避難所訓練等) ②防災倉庫の確認(ホイッスル、担架、リヤカー、搬送用資器材等) ③要支援者名簿の作成

2) 道路閉塞への対策

小テーマ	災害時、特に優先度の高い活動	事前対策 (例)
①参集	<ul style="list-style-type: none"> 一時集合場所に参集 身近な情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ①組織体制の整備 ②装備品の準備(ヘルメット、軍手、靴等) ④一時集合場所の指定
②情報収集	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集項目の確認(火災の有無、道路不通箇所、倒壊家屋の情報、水道の破裂、安否確認等) 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報連絡体制の整備(伝令係) ③通信機器(トランシーバー等)の整備 ③「情報連絡員」の派遣(町会相互の協力体制づくり) ④安全な道を事前に検討 ④「危険・資源マップ」の作成・活用
③初期消火・救助活動	<ul style="list-style-type: none"> バケツリレー 応急救護 	<ul style="list-style-type: none"> ①消火訓練・応急手当講習等 ①被害を想定した防災訓練 ②消火資器材・救助資器材の整備 ④消火器の場所・井戸の場所
④避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> 役員で役割分担 安全な避難場所・避難路等の特定 避難者への指示 要支援者支援 	<ul style="list-style-type: none"> ①要支援者の支援体制づくり(役割分担) ①避難訓練 ②「黄色のハンカチ」(安否確認用)の配布・活用 ④それぞれの地域での避難場所の指定(※安全性がより高い場所)

3) 集中豪雨への対策

小テーマ	災害時、特に優先度の高い活動	事前対策（例）
①参集	<ul style="list-style-type: none"> 予報を聞く 被害の情報を聞く 6時間前（警報が出る）に参集 	<ul style="list-style-type: none"> ⊕防災本部長、理事の指定 ⊕装備品の準備（ヘルメット、雨合羽、手袋、靴等） ⊕LINE、防災メールを活用 ⊕神社、学校、消防団分団本部の安全確保
②情報収集	<ul style="list-style-type: none"> 被害情報・安否情報等の収集 状況判断・役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> ⊕住民防災組織、消防団、民生委員の協力体制づくり ⊕携帯、無線、懐中電灯の整備 ⊕過去の水害履歴等の確認 ⊕気象情報・河川水位・災害情報等の確認 ⊕下水の配管の場所の調査 ⊕「危険・資源マップ」の作成・活用
③水防活動	<ul style="list-style-type: none"> 土のうを積む 	<ul style="list-style-type: none"> ⊕土のうを積む人の確保 ⊕土のうの配備 ⊕土のう配備情報の整理・活用
④避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> 避難所を開く 通行止め 要支援者の避難誘導 避難の呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ⊕要支援者に対応する町会役員 ⊕責任者（担当者）の代理 ⊕バンダナの準備（安否確認、要支援者等に配布済） ⊕広報手段の準備（トラメガ、インターネット等） ⊕要支援者名簿の準備 ⊕複数の避難場所・避難路を想定（マンション含む）

4) 水害への対策

小テーマ	災害時、特に優先度の高い活動	事前対策（例）
①各自で情報収集	<ul style="list-style-type: none"> 危険箇所の情報収集 安否確認 	<ul style="list-style-type: none"> ⊕防災無線の感度の確認 ⊕情報収集手段の啓発（防災メール、ラジオ、テレビ等）
②集合	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担 通信手段の確保 団地（高い建物）への移動 	<ul style="list-style-type: none"> ⊕町内会役員、複数の人を指定 ⊕装備品の準備（ヘルメット、雨合羽、手袋、靴等） ⊕一時集合場所の周知 ⊕施設・団地（高い建物）を複数指定→施設の耐水化
③情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集 状況判断 情報提供（避難所・避難場所、道路状況、河川水位等）（自転車で巡回） 	<ul style="list-style-type: none"> ⊕本部情報収集・整理訓練（防災部長を対象） ⊕広報手段の準備（拡声器、のろし、トラメガ、インターネット等） ⊕気象情報・河川水位・災害情報等の確認 ⊕タイムラインに沿った対応の基準・手順の確認 ⊕情報連絡網の作成 ⊕「危険・資源マップ」の作成・活用（防水加工）
④要支援者支援	<ul style="list-style-type: none"> 要支援者への声かけ・避難支援 	<ul style="list-style-type: none"> ⊕近所つきあい、地域交流 ⊕自助の啓発、訓練の実施 ⊕ロープ、ボート等の確保 ⊕要支援者名簿の準備 ⊕防災関係への連絡体制、連絡網の準備 ⊕周囲の対象者→不在の場合あり、孤立状態 ⊕複数の避難場所・避難路を想定（マンション含む）

ステップ 4

自分に何ができるか考えましょう

(1) 地域防災活動に参加しましょう

ポイント!

板橋区では、多くの町会・自治会が住民防災組織（自主防災組織）を結成し、地域防災活動に取り組んでいます。地域の一員として、住民防災組織活動に積極的に参加しましょう。また、防災組織を結成していない地域やマンションなどでは、自主防災組織を結成しましょう。

防災活動への参加方法（例）

- 防災活動に関心を持ち、災害時には住民防災組織の活動に積極的に参加する。
- 災害時に役に立つ専門能力（医療福祉関係者や建設関係者など）を持つ場合は、どのような支援が可能か、事前に住民防災組織に伝えておく。
- 災害時に支援を受けたい要支援者は、事前に住民防災組織に支援してもらいたい内容を伝え、支援者とともに支援計画を作成する。
- 防災講習や訓練に参加し、防災知識の習得や資器材の使用法の習熟に努める。
- 住民防災組織のメンバーになり、地域防災活動の担い手になる。

(2) 住民防災組織の役割分担

ポイント!

平常時と災害時の活動に応じて、役割分担（組織体制）を考えましょう。

- 「被災・対応シナリオ」（ステップ2）の活動に合わせた 災害時の役割分担
- 「事前対策リスト」（ステップ3）の活動に合わせた 平常時の役割分担

住民防災組織の体制と活動例		組織活動	
		災害時	平常時
組織体制			
本部長	情報収集・伝達班	●情報の収集・伝達	●防災知識の普及・啓発
	避難誘導班	●避難誘導	●地域内の安全点検
	初期消火班	●初期消火	●消火用ポンプや担架など 防災資器材の点検・整備・ 使用法の習熟
	救出・救助班	●被災者の救出・救助	●要支援者名簿・支援計画の 作成
	救護班	●応急手当	●防災訓練・講習会の実施
	要支援者救護班	●要支援者の支援	
	避難所運営班	●避難所の管理・運営	
	給食・給水班	●炊き出し	

防災訓練をしましょう

ポイント！

いざというときに、地域で協力して適切な行動ができるように防災訓練に参加しましょう。

さらに詳しく！

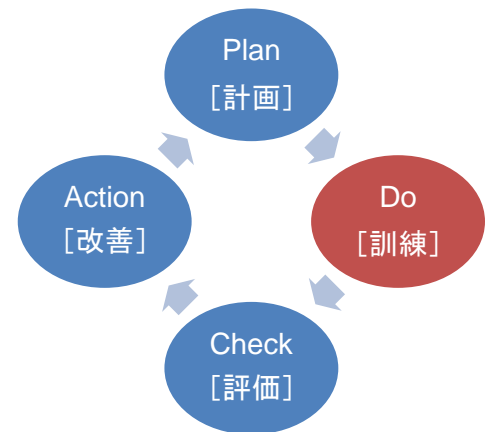


転倒した家具からの救出訓練

(1) 防災訓練の必要性

防災マニュアルは、作成して終わりではなく、実際に実行できるのかどうかを確認する必要があります。

そのためには、実践的な防災訓練を行ってマニュアルを検証し、必要に応じてマニュアルを見直すこと、つまり「計画→訓練→評価→マニュアルへの反映」という、「PDCAサイクル（右図：Plan [計画] → Do [実行] → Check [評価] → Action [改善]）」を繰り返すことが重要です。



(2) 防災訓練のメニュー

訓練には、地図やシナリオを使い災害対応のイメージを高める図上訓練、資器材を実際に使う実技型訓練などがあります。積極的に参加・企画しましょう。

防災訓練のメニュー（例）

○情報収集・伝達訓練

災害時に、地域の被害状況（死傷者、建物・道路の被害程度等）を迅速に調査し、地域の情報拠点に情報を集め、区に報告したり、対応方針を地域住民に伝達するための訓練。

○救出・応急救護・搬送訓練

災害時に、倒壊家屋から生き埋め者の救出、傷病者の応急手当（AED、止血等）、災害拠点連携病院への搬送などを行うための訓練。

その他、消火訓練、避難誘導訓練、避難所開設・運営訓練、給食給水訓練、要支援者のケア訓練、水害対応訓練等、様々な訓練があります。

区のホームページに、防災訓練の具体的な方法を紹介していますので、防災訓練の企画に活用してください。

板橋区防災訓練「訓練メニュー」

<http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/057/057278.html>

おわりに

(1) 共助の防災対策を進める上での課題

このマニュアルを作成するにあたっては、共助の防災対策に関わる様々な話し合いの中で、意見が分かれたり、よい解決策が見つからない場合もありました。

そうした課題や悩みをテーマ毎に整理したものが下表です。今後とも、地域での話し合いのテーマとして、地域に合ったよい解決策を考えましょう。

テーマ	共助の防災対策の課題
参集	・ 役員が参集できない場合の役割分担をどうするか。(代理人、柔軟性等)
被害調査・分析	・ 被害・安否情報をどう収集・伝達するか。(連絡体制、手段等)
対応方針の決定	・ 対応の優先順位をどう判断するか。(被害の重大性、緊急性、可能性等) ・ 対応方針をどう決めるか。(本部長権限、合議制等) ・ 大事な情報を住民・関係者等にどう伝達するか。(伝令、掲示等)
活動体制・資器材の確保	・ 本部体制をどう構築するか。(本部の役割分担、担い手確保等) ・ 関係機関とどう連携するか。(区役所・警察・消防・事業所等との協定等) ・ 必要な資器材をどう確保するか。(備蓄、調達先リスト、各種協定等)
応急活動の実施	・ 「想定外」の事態にどう対処するか。(イメージトレーニング、図上訓練等) ・ 従事者の安全をどう確保するか。(活動体制、装備、情報提供等)

(2) 本マニュアルの活用方法

本マニュアルの活用方法として下記のことが考えられますので、地域の皆さままで進めていきましょう。

- マニュアルの普及・啓発
- まち歩きと防災マップづくり
- 防災訓練の企画、実施
- 各町会・自治会独自のマニュアルづくり
- 組織体制の見直し
- 関係機関や事業所との連携、等

ポイント!

今後は、より一層きめ細やかな、実効性のある共助の防災対策となるように、この「成増地区防災マニュアル」をもとに、各町会・自治会で「防災マニュアル」を作成してみたいかがでしょうか。